

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 19日

事業所名 ラポール・ブルーミング

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・室内以外にも法人グラウンド等も使用	
	2 職員の配置数は適切である	○		・できるだけ少人数での支援を行っている。	・少人数でサポートを行っているが、これから先のことも考え、多くの人の中でも過ごせる時間も増やしていきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		・手すりの設置等の必要と思われる箇所の改善を行っている途中である。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		・業務改善の意見等により、一部改善しているが振り返り等までできておらず、一度決定したらそのままであるため、定期的に振り返りを行い、改善点があれば改善していく。 ・サポート職員の振り返りの参画が不十分なところもあるため、それらの職員にも広げていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		・意見を聞き取れていないところもあるため、顔と顔との関係を大切にし、意見を出してもらいやすい雰囲気づくりにつとめる。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人HP等で公開している。	法人HP等で公開していく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・法人ごとに交替で第三者評価を受審している。	・来年度、第三者評価受審予定。業務改善については、検討されているが見直し等の業務が行われていないことも多い。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・職員交替で研修等に参加している。	・引き続き交替で研修等に参加し、職員会議で研修報告を行っている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・アセスメントは年度ごとに聞き取りを行っている	・アセスメントの聞き取りは行われており、出来る限り支援計画にも盛り込まれているが引き続き、「本当にこれでよいのか？」と考え続けていく。
適切な支援の提	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・アセスメントは年度ごとに聞き取りを行っている	・年度ごとに作成しているため、それらを再度支援者側も把握しておく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	・曜日ごとに活動内容は決められている	・活動内容については決められているが、一部の職員で活動を決めている
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・運動活動などを取り入れている	・基本となる運動を担当職員で決め、それらに他の職員が肉付けしていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		・活動に対しての大まかな目的、課題を前日に挙げ、活動表に明示していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・個人に合わせた活動等取り入れている	・集団活動に入りにくい児童についても入りやすいような雰囲気づくりを心がけていく。

供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		・朝礼、夕礼等では打ち合わせを行うが、きめ細やかな打ち合わせまでできていないため、開始前に打ち合わせを再度行う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		・打ち合わせに参加できなかった職員に関しては支援日誌等で確認し、情報共有を行っている。ただし改善方法まで至らないこともあるため、具体的な方法に落とし込んでいく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○	・毎利用ごとに記録は記入している。	・支援日誌等により記録はとられているが、改善方法まで落とし込まれていないため改善方法まで落とし込んでいく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・半年ごとに計画の見直し等を行っている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○		・ガイドラインが周知できていない部分もあるため、ガイドラインの周知を行う。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・担当職員が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○	・保護者を通して確認している	・個人情報の観点もあるため、保護者を通して確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		・医療ケアが必要な児童の受け入れも今後検討していく必要がある。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		・今後、対象となる児童がいた場合、関係機関との共有も行っていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・事業所の方から要望があった場合、個人情報の観点もあるため、保護者の了解を得てから情報を伝える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		・今後、他機関等との助言も必要となる可能性もあるため、まず保護者の方にもこのような機関があることも伝えていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・保護者の方から望む声が多ければ行っていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・担当職員交替で参加し、報告も行っている	・引き続き、交替で参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・送迎の際など、顔と顔の関係を築いている	・引き続き、送迎等の際、保護者との連絡・共有等も行う。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		・ペアレント・トレーニング等は行われておらず保護者からの相談があった場合、真摯に受け止め、保護者とともに学び成長していきけるようにしていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・都度、説明を行っている。	・支援の内容、利用者の負担等については都度、説明を行うが、運営規定については利用開始の契約時のみのため、保護者の見える箇所にも掲示しておく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・引き続き、保護者のお話等を聞きながら、事業所でできそうな助言等を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・事業所全体として利用者の保護者対象に年に一度保護者会、行事の呼びかけは行われているが、放課後等デイサービスの保護者のみを対象としたものはない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○	・苦情等あった場合、すぐに職員に周知し、対応を検討している。	・苦情等があった場合、引き続き、すぐに対応を行う。また日頃から職員側も保護者の方より話しやすいと感じていただけるような接し方を心掛けていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・写真等、個人情報には注意している。	・法人全体で広報を発行し、配布している
	35	個人情報に十分注意している	○			・無意識に利用者の前で個人の情報を口にしてしまう可能性もあるため、注意していく。

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・説明書等にはルビを振るなど行っている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・2年ほど前まで地域を巻き込んだブルフェスタを行っていた。	・コロナウイルスが終息した場合、再度ブルフェスタの開催等も検討していく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	・マニュアルを策定しつつある。	・各マニュアル、保護者まで周知できていない部分も多いため、保護者にも説明する機会も設ける。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・定期的に避難訓練は行われている。	・災害時に備え、法人で非常食等、災害時備蓄品は準備できている。 ・避難訓練を行う前に保護者の方にもお伝えしておく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・	・グレーな部分において、適切な対応ができているのか疑問が残るため、都度、その対応がよくなったのか見直していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・身体拘束とまではいかないが、突発的な行動において危険を伴う場合、行動を制止させていただく場合もあるため、「同意書」等を作成し了解を得ていく。そして少しでも、制止する時間、回数を減らしていけるように努める。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	・アレルギーの有無を保護者から確認を行い、注意している。	・もし今後、必要な利用者がいた場合、医師の指示書を準備していただく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	・毎月の職員会議でヒヤリハットの報告等を行う。	